

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
コミュニケーションスキルⅠ									
〔授業の学習内容と心構え〕 医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者との信頼関係を築くために医療現場で必要とされるコミュニケーションの方法を知識技術として習得する授業を行う。 様々な患者を想定し自分自身で考えながら授業に臨んでほしい。									
〔到達目標〕 コミュニケーションの基本的な考え方について理解し、鍼灸師として必要な対人スキルを習得する。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕 自分なりにコミュニケーションは何かを考えてくること。また、授業後は復習をし用語の意味やコミュニケーション術について反復し理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	コミュニケーションの取り方について	医療従事者として、コミュニケーション重要性を理解する。							
2	コミュニケーションの取り方について	医療従事者として、コミュニケーション重要性を理解する。							
3	コミュニケーション演習	多様化の時代に適したコミュニケーション方法を考えることが出来る							
4	コミュニケーション演習	多様化の時代に適したコミュニケーション方法を考えることが出来る							
5	コミュニケーション演習	コミュニケーションを通して大きな成果を得られることを体感する。							
6	コミュニケーション演習	コミュニケーションを通して大きな成果を得られることを体感する。							
7	コミュニケーション演習	自助・共助・公助を理解し、互いに助け合うことの重要性を学ぶ							
8	コミュニケーション演習	自助・共助・公助を理解し、互いに助け合うことの重要性を学ぶ							
9	デジタルコンテンツを利用した動画作成の作り方	IT機器を駆使し、自己開示を行う。							
10	コミュニケーション演習	チームで成果を上げることの重要性を理解する。							
11	コミュニケーション演習	チームで成果を上げることの重要性を理解する。							
12	コミュニケーション演習	チームで成果を上げることの重要性を理解する。							
13	コミュニケーション演習	チームで成果を上げることの重要性を理解する。							
14	コミュニケーション演習	チームで成果を上げることの重要性を理解する。							
15	コミュニケーション演習	チームで成果を上げることの重要性を理解する。							
〔評価について〕 レポート課題にて評価を行う。					〔特記事項〕				

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	1	開講 区分	通年	担当教員 進藤千聖/東路子			
授業科目名 コミュニケーションスキルII		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者との信頼関係を築くために医療現場で必要とされるコミュニケーションの方法を知識技術として習得する授業を行う。 様々な患者を想定し自分自身で考えながら授業に臨んでほしい。									
〔到達目標〕 ①学習を通じてコミュニケーションの方法を学び相互支援関係を作ることができる。 ②自分なりのおもてなしを考え相互理解を高めおもてなしの心得を理解することができる。 ③キャリア教育を通じてビジネスマナーを学び実践することができる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕 普段の生活でサービス・おもてなし体験をしてきてほしい。 また、おもてなしの型を理解し反復学習してほしい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	チームコミュニケーション①				クラスとの交流を深め3年間の生活がイメージできる				
2	チームコミュニケーション②				クラスとの交流を深め4年間の生活がイメージできる				
3	チームコミュニケーション③				クラスとの交流を深め5年間の生活がイメージできる				
4	チームコミュニケーション④				クラス間の交流を深め、同じ目標を持つ仲間との情報交流ができる。				
5	チームコミュニケーション⑤				クラス間の交流を深め、同じ目標を持つ仲間との情報交流ができる。				
6	多様化する業界①				卒業生のお話を聞き、学校生活のイメージができる。				
7	多様化する業界②				卒業生のお話を聞き、学校生活のイメージができる。				
8	多様化する業界③				様々な分野で活躍するセラピストのお話を聞き、将来像を明確にできる。				
9	多様化する業界④				様々な分野で活躍するセラピストのお話を聞き、将来像を明確にできる。				
10	多様化する業界⑤				様々な分野で活躍するセラピストのお話を聞き、将来像を明確にできる。				
11	業界への理解と自身の未来①				これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。				
12	業界への理解と自身の未来②				これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。				
13	業界への理解と自身の未来③				これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。				
14	業界への理解と自身の未来④				これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。				
15	業界への理解と自身の未来⑤				これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。				
〔評価について〕 評価はレポートで行う。 評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	保険体育Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(4)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

プロスポーツ現場で9年トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場として、トレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいたかたちでトレーナーの知識・技術・経験などを学ばせていく。トレーナー現場での中高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。☑

〔到達目標〕

中高校生など育成年代の部活動やスポーツチームで現場の高いニーズに応じてフルタイムでトレーナー活動が出来るようになること☑

〔使用教材、参考文献等〕

テーピングのポイントはこれだ！（滋慶出版）、トレーニング指導者テキスト(理論編)(実践編)、ストレングス&コンディショニングⅠ(理論編)Ⅱ(エクササイズ編)

〔準備学習・時間外学習〕

初めて行なう技術であるため授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	講義の概要とトレーナーとして必要なことや不可欠な要素	トレーナーの必要性や重要性が理解できる。
2	パートナーストレッチの必要性と方法	パートナーストレッチの必要性を理解するとともにパートナーストレッチが模倣・指導できる。
3	パートナーストレッチの確認テスト(実技)	パートナーストレッチの確認テストを実施する。
4	クーリングダウン及び静的ストレッチの必要性と方法	静的ストレッチの必要性を理解するとともに静的ストレッチが模倣・指導できる。
5	静的ストレッチの確認テスト(実技)	静的ストレッチのテストを実施する。
6	ウォーミングアップ及び動的ストレッチの必要性と方法	動的ストレッチの必要性を理解するとともに動的ストレッチが模倣・指導できる。
7	動的ストレッチの確認テスト(実技)	動的ストレッチのテストを実施する。
8	自重の筋トレ(スクワットやランジ、腕立て伏せ、アーマルフロー)の必要性と方法	自重の筋トレの必要性を理解するとともに自重の筋トレが模倣・指導できる。
9	道具(バランスボール、ストレッチボール)を用いたトレーニングの必要性と方法	ストレッチボールの必要性を理解するとともに、多くのトレーニングが模倣・指導できる。
10	ストレッチボールを用いたエクササイズの確認テスト(実技)	ストレッチボールを用いたエクササイズのテストを実施する。
11	道具(セラバンドやゴムチューブ)を用いたトレーニングの必要性と方法	セラバンドやゴムチューブの必要性を理解するとともに、多くのトレーニングが模倣・指導できる。
12	スポーツにおける栄養・休養の必要性と方法	栄養・休養の必要性を理解するとともに食事・休養の必要性などを指導できる。
13	トレーニング施設の管理・運営①(スポーツジム)	スポーツジム施設の安全及び環境の配慮、運営の際に考慮すべき事項を理解できる。
14	トレーニング施設の管理・運営②(トレーナールーム)	トレーナールームの環境配慮、運営の際に考慮すべき事項を理解できる。
15	確認試験	筆記テストにて習熟度の確認を行う。

〔評価について〕

評価は確認テストと筆記試験などにより採点を行い、合計100点で評価する。合計4回行なう実技確認テストは、各回10点満点とし、筆記試験は60点満点とする。評価は学則規定に準ずる。☑

〔特記事項〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。☑

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科			学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	保険体育Ⅰ			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60 (4)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕											
<p>プロスポーツ現場で9年トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場として、トレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいたかたちでトレーナーの知識・技術・経験などを学ばせていく。トレーナー現場での中高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。☑</p>											
〔到達目標〕											
<p>中高校生など育成年代の部活動やスポーツチームで現場の高いニーズに応じてフルタイムでトレーナー活動が出来るようになること☑</p>											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
<p>テーピングのポイントはこれだ！（滋慶出版）、トレーニング指導者テキスト(理論編)(実践編)、ストレングス&amp;コンディショニングⅠ(理論編)Ⅱ(エクササイズ編)</p>						<p>初めて行なう技術であるため授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。</p>					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
16	講義の概要とテーピングの概要					テーピングの基礎的な内容が理解できる					
17	足関節の触診の復習とテーピングの切り方					テーピングの切り方のコツをマスターできる					
18	アンダーラップの使い方と巻き方①					アンダーラップの巻き方のコツをマスターできる					
19	アンダーラップの使い方と巻き方②					アンダーラップの巻き方のコツをマスターできる					
20	アンダーラップテスト(実技)					アンダーラップの確認テストを実施する					
21	アンカーテープとステアアップ					ステアアップまでの巻き方のコツをマスターできる					
22	ホースシュー、ヒールロック、フィギュアエイト					フィギュアエイトまでの巻き方のコツをマスターできる					
23	足関節内反捻挫予防(片脚)の確認テスト(実技)					足関節内反捻挫予防テーピング(片脚)の確認テストを実施する					
24	足関節捻挫に対する応用テーピング①(サッカーテーピング)					足関節捻挫のテープ(応用①)を巻くことができる					
25	足関節捻挫に対する応用テーピング②(底背屈制限)					足関節捻挫のテープ(応用②)を巻くことができる					
26	足関節内反捻挫予防(両脚)の確認テスト(実技)					足関節内反捻挫予防テーピング(両脚)の確認テストを実施する					
27	足関節捻挫に対する応急処置のやり方①					RICE処置の必要性を理解するとともに圧迫が模倣・指導できる					
28	足関節捻挫に対する応急処置のやり方②					RICE処置の必要性を理解するとともにアイシングが模倣・指導できる					
29	アイシングの確認テスト(実技)					アイシングの確認テストを実施する					
30	期末テスト					筆記テスト					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
<p>評価は確認テストと筆記試験などにより採点を行い、合計100点で評価する。合計4回行なう実技確認テストは、各回10点満点とし、筆記試験は60点満点とする。評価は学則規定に準ずる。☑</p>						<p>授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。☑</p>					

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科			学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	解剖学Ⅰ			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
				山田 英史							
〔授業の学習内容と心構え〕											
鍼灸師として地域住民の健康増進に貢献している教員が、医療の基礎となる解剖学のうち、人体構造の基礎、筋骨格系を習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。											
〔到達目標〕											
医学の基礎となる解剖学の知識を習得する。 人体構造の基礎、筋骨格について説明できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 解剖学(医歯薬出版) 解剖生理(医歯薬出版社)						〔準備学習・時間外学習〕 医学用語が多く、文章を読み解くことが難しいため、予習を行う。知識定着のための復習を毎回行う。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	・オリエンテーション ・第1章；人体の構成 1. 細胞					人体の構成で最小単位である細胞を理解できる。					
2	・第1章；人体の構成 細胞分裂と遺伝子～上皮組織					上皮組織の違いが分かり、どこにどのような上皮組織があるか理解できる。					
3	・第1章；人体の構成 結合組織					結合組織にどのようなものがあるかが分かり、どこにどのような結合組織があるか理解できる。					
4	・第1章；人体の構成 筋組織～神経組織					筋組織、神経組織の構造が理解できる。					
5	・第1章；人体の構成 体表構造～人体の区分と方向					人体の区分と方向の用語が分かり運動方向の理解ができる。					
6	第10章；運動器系 骨格系～筋系					筋骨格の基礎が理解できる。					
7	第10章；運動器系 脊柱					脊柱の構造が理解できる。 頸椎・胸椎・腰椎の構造が理解できる。					
8	中間テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	第10章；運動器系 胸郭					胸郭の構造が理解できる。					
10	第10章；運動器系 上肢帯の骨格					上肢帯の構造が理解できる。					
11	第10章；運動器系 上肢の骨格					橈骨・尺骨・手の骨の構造が理解できる。					
12	第10章；運動器系 下肢帯の骨					下肢帯を構成する骨の構造が理解できる。					
13	第10章；運動器系 下肢の骨					脛骨・腓骨の構造が理解できる。					
14	第10章；運動器系 下肢の骨					足根骨・趾骨の構造が理解できる。					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間テスト(30点満点)小テスト(計4回の合計を20点満点とする割合で計算)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 医学用語が多く文章を読み解くことが難しいため、予習を行う。知識定着のための復習を毎回行う。毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。授業内容を図などを確認しながら次回の授業までに復習しておくこと。☒					

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科		学年	1	開講区分	通年		担当教員		
授業科目名			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
解剖学Ⅰ										
〔授業の学習内容と心構え〕 鍼灸師として地域住民の健康増進に貢献している教員が、医療の基礎となる解剖学のうち、人体構造の基礎、筋骨格系を習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。										
〔到達目標〕 医学の基礎となる解剖学の知識を習得する。 人体構造の基礎、筋骨格について説明できるようになる。										
〔使用教材、参考文献等〕 解剖学(医歯薬出版) 解剖生理(医歯薬出版社)						〔準備学習・時間外学習〕 医学用語が多く、文章を読み解くことが難しいため、予習を行う。知識定着のための復習を毎回行う。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
16	第10章; 運動器系 頭蓋骨				頭蓋骨を構成する骨を理解できる。					
17	第10章; 運動器系 頭蓋骨				顔面頭蓋・脳頭蓋の構造を理解できる。					
18	第11章; 運動器系 頭蓋骨				内頭蓋底・外頭蓋底の構造を理解する。					
19	第10章; 運動器系 体幹の筋①				体幹前面(胸部・腹部)の筋の構造について理解できる。					
20	第10章; 運動器系 体幹の筋②				体幹後面(背部・腰部)の筋の構造について理解できる。					
21	第10章; 運動器系 上肢の筋①				肩甲骨に付着する筋の構造が理解できる。					
22	第10章; 運動器系 上肢の筋②				上腕部の筋(屈筋・伸筋)の構造が理解できる。					
23	中間テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
24	第10章; 運動器系 上肢の筋③				前腕の筋(屈筋・伸筋)・手の内在筋の構造が理解できる。					
25	第10章; 運動器系 下肢の筋①				内腸骨筋と外腸骨筋の構造が理解できる。					
26	第10章; 運動器系 下肢の筋②				大腿の筋(屈筋・伸筋)の構造が理解できる。					
27	第10章; 運動器系 下肢の筋③				下腿の筋(前部・後部・外側部)の構造が理解できる。					
28	第10章; 運動器系 頭頸部の筋				頸部の筋・表情筋の構造が理解できる。					
29	第10章; 運動器系 体幹の局所解剖				体幹の支配神経脈管について理解できる。					
30	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間テスト(30点満点)小テスト(計4回の合計を20点満点とする割合で計算)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 医学用語が多く文章を読み解くことが難しいため、予習を行う。知識定着のための復習を毎回行う。毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。授業内容を図などを確認しながら次回の授業までに復習しておくこと。☒				

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科	学年 1	開講区分 通年	担当教員 櫻井 恵司		
授業科目名 解剖学Ⅱ	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 60(2)	授業回数 30	
〔授業の学習内容と心構え〕 鍼灸マッサージ師、NSCA-CPT、NSCA-CSCSの資格を持ち、20年以上教育に携わり地域住民の健康増進に貢献している開業鍼灸師が、医療の基礎となる解剖学のうち、内臓系、循環器系、神経系を習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。☒					
〔到達目標〕 医学の基礎となる解剖学の知識を習得する。 呼吸器、消化器、泌尿器、内分泌器、循環器、神経について説明できるようになる。					
〔使用教材、参考文献等〕 授業は配布資料を使用。解剖学【第2版】公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版			〔準備学習・時間外学習〕 解剖学【第2版】の該当範囲を読んで授業に臨むこと。☒		
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)		
1	オリエンテーション 第3章 呼吸器系 鼻腔・咽頭		呼吸器系の器官の位置について理解できる。 鼻腔、副鼻腔、咽頭の構造について理解できる。		
2	咽頭、喉頭、気管、気管支		喉頭、気管、気管支の構造について理解できる。		
3	肺、胸膜		肺、胸膜の構造を理解できる。		
4	第2章 循環器系 血管総論		血管の構造、血液循環を理解できる。		
5	心臓		心臓の位置、構造(外景)を理解できる。		
6	心臓		心臓の構造(内景)、心臓の血管を理解できる。		
7	心臓、動脈		心臓の血管、刺激伝導系を理解できる。		
8	前期中間試験 動脈系		試験により効果測定を行い、習熟度を理解できる。 大動脈の走行を理解できる。		
9	動脈系		大動脈弓と胸大動脈の走行と分枝を理解できる。		
10	動脈系		腹大動脈の走行と分枝を理解できる。		
11	静脈系		動脈の走行と静脈の走行の相違を理解できる。奇静脈系を理解できる。		
12	静脈系		門脈系、胎児循環を理解できる。		
13	胎児循環、リンパ系		胎児循環、リンパ管の走行を理解できる。		
14	リンパ系 第4章 消化器系 総論		脾臓の構造を理解できる。消化器系に属する		
15	前期期末試験 口腔		試験により効果測定を行い、習熟度を理解できる。 口腔の構造を理解できる。		
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 前半の試験(計100点)・後半の試験(計100点)は其々、小テスト(計30点)、確認試験(30点)、期末試験(40点)を実施する。 評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕		

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科			学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名	解剖学Ⅱ			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕											
鍼灸マッサージ師、NSCA-CPT、NSCA-CSCSの資格を持ち、20年以上教育に携わり地域住民の健康増進に貢献している開業鍼灸師が、医療の基礎となる解剖学のうち、内臓系、循環器系、神経系を習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。☒											
〔到達目標〕											
医学の基礎となる解剖学の知識を習得する。 呼吸器、消化器、泌尿器、内分泌器、循環器、神経について説明できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
授業は配布資料を使用。解剖学【第2版】公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版						解剖学【第2版】の該当範囲を読んで授業に臨むこと。☒					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
16	口腔、咽頭、食道、胃					口腔、咽頭、食道の構造を理解できる。					
17	胃、小腸、大腸					胃、小腸、大腸の構造を理解できる。					
18	大腸、肝臓					肝臓の構造を理解できる。					
19	胆嚢、膵臓、腹膜					胆嚢、膵臓の構造を理解できる。腹膜内臓器、後腹膜臓器を理解できる。					
20	第5章 泌尿器系 腎臓					腎臓の構造を理解できる。					
21	腎臓、尿管、膀胱、尿道					腎臓、尿管、膀胱、尿道の構造を理解できる。					
22	第7章 内分泌系 視床下部、下垂体、松果体					下垂体の構造を理解できる。					
23	後期中間試験 甲状腺、上皮小体、副腎					試験により効果測定を行い、習熟度を理解できる。 甲状腺、上皮小体、副腎の構造を理解できる。					
24	性腺 第8章 神経系 総論 脊髄					神経の概要、脊髄の構造(外景)を理解できる。					
25	脊髄、脳幹					脊髄の構造(外景)、脳幹の構造を理解できる。					
26	間脳、小脳、大脳皮質					間脳、小脳、大脳皮質の構造を理解できる。					
27	大脳皮質、大脳髄質					大脳皮質、大脳髄質の構造を理解できる。					
28	脳脊髄膜、脳の血管、脳室系					脳脊髄膜、脳の血管、脳室系の構造を理解できる。					
29	後期期末試験 伝導路☒					試験により効果測定を行い、習熟度を理解できる。 伝導路を理解できる。					
30	伝導路					伝導路を理解できる、。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。 前半の試験(計100点)・後半の試験(計100点)は其々、小テスト(計30点)、確認試験(30点)、期末試験(40点)を実施する。 評価は学則規定に準ずる。											

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	生理学Ⅰ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	90(3)	授業回数	45
<p>〔授業の学習内容と心構え〕</p> <p>医療の基礎となる生理学のうち、循環器系・消化系・呼吸系・排泄系の機能を習得する授業を行う。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講して欲しい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んで欲しい。☑</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>医学の基礎となる生理学の知識を習得する。                  身体の正常な働きを説明できるようになる。</p> <p>〔使用教材、参考文献等〕                  生理学(医歯薬出版)、配布資料</p> <p>〔準備学習・時間外学習〕                  単なる暗記でなく、内容を理解した上で記憶する習慣をつけてもらいたい。</p>										
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 第1章 生理学の基礎 A、生理機能の特徴～					科目概要および生理学を学ぶ意義を理解する。 細胞内小器官の役割を理解する。				
2	第1章 DNA～E、物質移動					体液の組成と、出納バランスをおおまかに捉える。 物質移動の種類と法則を理解する。				
3	第4章 消化と吸収 A、消化と吸収 ～(2) 小腸の運動					消化吸収の過程について大枠を理解する。				
4	第4章 (3) 大腸の運動～C、消化液 [1] 唾液 *小テスト実施予定					消化管運動と調節機構について理解する。 消化液の作用について酵素を中心に理解する。				
5	第4章 機会的消化復習 [2] 胃液～[5] 腸液					消化液の作用について酵素を中心に理解する。				
6	第4章 [6] 大腸液～D、吸収 b. 各種栄養素の吸収					吸収の機序を理解する。				
7	第4章 E. 肝臓の働き ～ F、摂食の調節 *小テスト実施予定					肝臓の働きを理解する。 栄養素について理解する。				
8	中間テスト					第1章・第4章についての習熟度をみる試験を行う。				
9	テスト解説 第5章 代謝 c. エネルギー代謝～					テストを返却し、解説する。 基礎代謝について理解する。				
10	第5章 C、各栄養素の働きと代謝 a. 糖質～b. 脂質					糖質・脂質の働きと代謝について理解する。				
11	第5章 c. 蛋白質～g. 代謝の調節 *小テスト実施予定					蛋白質および副栄養素の働きと代謝について理解する。				
12	第7章 排泄 C、尿生成～e. クリアランス					尿生成のしくみ、腎機能の測定について理解する。				
13	第7章 f. 尿の成分～E. 蓄尿と排尿 *小テスト実施予定					腎臓による体液の調節機構を理解する。				
14	期末テスト					第5章・第7章についての習熟度をみる試験を行う。				
15	テスト解説 総復習					テストを返却し、解説する。 これまでの総復習を行う。				
〔評価について〕					〔特記事項〕					
評価は確認試験・期末試験により行う。筆記試験で各50点満点、合計100点で評価する。 授業内で実施する小テストの点数を定期試験に加算する。評価は学則規定に準ずる。					プリント(またはデータ)を中心に授業を行うので、プリントの重要項目を中心に全体的な流れをつかむことが大切である。メモを取るような習慣をつけ、自学習に役立てて欲しい。☑					

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科			開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	学年	1		授業形態	講義	時間数(単位)	90(3)	授業回数	45
	必修・選択	必修							

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。医療の基礎となる生理学の知識習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

医学の基礎となる生理学の知識を習得する。  
 身体の正常な働きを説明できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕 生理学(医歯薬出版)、配布資料	〔準備学習・時間外学習〕 単なる暗記でなく、内容を理解した上で記憶する習慣をつけてもらいたい。
---------------------------------	--

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
16	体液の生理	アシドーシス、アルカローシスを理解
17	血液の組成と働き	血液の細胞成分と血漿成分を知る
18	赤血球の働き	赤血球の働きを知る
19	止血の機序	血液凝固を理解
20	免疫システム	免疫システムを理解
21	血液型	ABO式 Rh式を理解
22	ビタミン欠乏	ビタミン欠乏症をしる
23	中間試験	
24	循環の生理	循環の基礎を知る
25	刺激伝導系	刺激伝導系を理解
26	心電図	心電図を理解
27	心筋梗塞、狭心症	心筋梗塞、狭心症を知る
28	血管の構造と働き	動脈静脈毛細血管を理解
29	血圧調節機序	神経とホルモンによる血圧調節機序を理解
30	期末試験	習熟度の確認

〔評価について〕 評価は確認試験・期末試験により行う。筆記試験で各50点満点、合計100点で評価する。授業内で実施する小テストの点数を定期試験に加算する。評価は学則規定に準ずる。	〔特記事項〕 プリント(またはデータ)を中心に授業を行うので、プリントの重要項目を中心に全体的な流れをつかむことが大切である。メモを取るような習慣をつけ、自学習に役立てて欲しい。☒
--	---

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科		学年	1	開講区分	前期	担当教員			今井 紀代子/森 大輔/石野 竜平		
授業科目名				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	90(3)	授業回数	45		
生理学Ⅰ													
〔授業の学習内容と心構え〕													
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。医療の基礎となる生理学の知識習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。													
〔到達目標〕													
医学の基礎となる生理学の知識を習得する。 身体の正常な働きを説明できるようになる。													
〔使用教材、参考文献等〕							〔準備学習・時間外学習〕						
生理学(医歯薬出版)、配布資料							単なる暗記でなく、内容を理解した上で記憶する習慣をつけてもらいたい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)							
31	第10章 神経 A.ニューロンの構造と働き a.ニューロン～d.変性と再生					神経の分類、ニューロンの働きについて理解する。							
32	第10章 B.神経線維の興奮伝導 a.静止電位～c.興奮の伝導 小テスト					興奮伝導の仕組み、神経線維の分類について理解する。							
33	第10章 C.シナプス伝達 a.興奮の伝達～e.受容体 小テスト					伝達、受容体について理解する。							
34	第10章 D.中枢神経系の分類と機能 E.反射 小テスト					中枢神経系の分類と機能、反射について理解する。							
35	第10章 F.脊髄 小テスト					脊髄の基礎知識、伝導路について理解する。							
36	中間テスト					習熟度をみる試験を行う。							
37	中間テスト返却・解説 第10章 G.脳幹～視床下部					中枢神経系の分類と機能について理解する。							
38	第10章 K.大脳～L.脳脊髄液					中枢神経系の分類と機能について理解する。							
39	中枢神経系の復習 第10章 M.末梢神経系 小テスト					中枢神経系の復習 末梢神経系の分類と機能について理解する。							
40	第10章 N.自律神経系～b.交感神経系 小テスト					自律神経系の機能と支配領域について理解する。							
41	第10章 c.副交感神経系～g.消化管における壁内神経叢 小テスト					自律神経系の機能と支配領域について理解する。							
42	第10章 h.自律神経系の神経伝達物質と受容体～j.自律神経の関与する反射 小テスト					自律神経系の機能について理解する。							
43	第10章 神経 復習					第10章 神経 総復習							
44	期末試験					習熟度をみる試験を行う。							
45	期末試験の解答解説					期末試験の解答解説を行う。							
〔評価について〕							〔特記事項〕						
評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(90点)と期末テスト(70点)で行う。小テスト(40点)はFormsで行う。合計200点で評価する。							プリント(またはデータ)を中心に授業を行うので、プリントの重要項目を中心に全体的な流れをつかむことが大切である。メモを取るような習慣をつけ、自学習に役立てて欲しい。☑						

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科 授業科目名 解剖生理学Ⅰ	学年 1	開講 区分 通年	担当教員 酒井 大輝	必修・ 選択 必修	授業 形態 講義	時間数 (単位) 15 (1)	授業 回数 8
〔授業の学習内容と心構え〕 医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。医療の基礎となる生理学の知識習得する授業を行なう。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講してほしい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。							
〔到達目標〕 神経系(中枢神経と末梢神経)と筋・運動に関して作用を担う器官の部位および構造的特徴を理解しそれぞれの機能の連動について理解を深め説明できるようにする。							
〔使用教材、参考文献等〕 解剖学（医歯薬出版）、生理学（医歯薬出版）				〔準備学習・時間外学習〕 シラバスに則り、予習してから参加する。			
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)			
1	解剖学 末梢神経			脊髄神経の特徴を理解する。			
2	解剖学 末梢神経			脳神経の特徴を理解する。			
3	解剖学 末梢神経			脳神経と自律神経の特徴を理解する。			
4	生理学 筋			筋の種類と特徴を理解する。			
5	生理学 筋			筋の収縮と疲労を理解する。			
6	生理学 運動			運動と反射について理解できる。			
7	生理学 運動			反射と運動調節について理解できる。			
8	評価試験（まとめ）			習熟度を測るために試験を行い復習の機会とする。			
〔評価について〕 評価はFormsと筆記試験で行う。 確認試験（20点）・期末試験（80点） 評価は学則規定に準ずる。☑				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。必要に応じ配布プリントによる授業を行う。			

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
衛生学・公衆衛生学									
〔授業の学習内容と心構え〕 鍼灸師として臨床現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、保健医療福祉の基本的事項および保健衛生の知識を習得する授業を行う。 座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。									
〔到達目標〕 国民が知らなければならない保健医療福祉の基本的事項を学び、医療従事者として患者に必要な保健衛生の知識や療養・リハビリテーション・生活の仕方・制度などについて新しい情報を伝えられ、指導できるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 衛生学・公衆衛生学【医歯薬出版】					〔準備学習・時間外学習〕				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 第1章 衛生学・公衆衛生学の意義				衛生学・公衆衛生学の成立、源流や歴史を理解できる。				
2	第10章1、消毒法一般 2、消毒の種類 1)物理的方法 (第1章 小テスト)				消毒の定義、種類を理解する。 物理的消毒方法を理解する。				
3	第11章 2、消毒の種類 2)化学的方法				化学的消毒方法を理解する。				
4	第11章 3、消毒の実際				医療における消毒の意義、対象と方法を理解する。				
5	第10章 感染症とその対策 (第11章 小テスト) 1、感染症の意義と種類				感染症の意義と種類を理解する。				
6	第10章 2、発生要因				感染症の発生要因を理解する。				
7	第10章 3、感染症予防の原則 4.免疫 (第10章 小テスト)				感染症の予防の原則を理解する。				
8	<前半 確認テスト>				<確認テスト>				
9	第2章 健康 1、健康の概念				健康の概要を理解する。				
10	第2章 2、健康管理				健康管理の構成や健康増進を理解する。				
11	第2章 3、衛生行政				健康に関する保健所や市町村の役割を理解する。				
12	第3章 ライフスタイルと健康 (第2章 小テスト) 1、食品と栄養				食品の意義や食品と疾患の関係性を理解する。				
13	第3章 1)~5)食中毒				食中毒について理解する。				
14	第3章 6)BSE 2、運動と健康 (第3章 小テスト)				運動と健康の保持・増進を理解する。				
15	期末テスト 解答・解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。筆記試験は小テスト 4×10=40点・確認テスト30×2=60 点・期末テスト50×2=100点の200 点満点で評価する。評価は学則規定に準ず る。☒					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとるこ と。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。章ごとの復習は もちろんだが、時事問題にも注視すること(ニュース、ネットニュ ース、新聞など)				

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科		学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		衛生学・公衆衛生学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕											
鍼灸師として臨床現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、保健医療福祉の基本的事項および保健衛生の知識を習得する授業を行う。											
座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。											
〔到達目標〕											
国民が知らなければならない保健医療福祉の基本的事項を学び、医療従事者として患者に必要な保健衛生の知識や療養・リハビリテーション・生活の仕方・制度などについて新しい情報を伝えられ、指導できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
衛生学・公衆衛生学【医歯薬出版】											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
16	第4章環境と健康 1. 環境とは 2. 物理的環境要因					環境要因について理解する。					
17	第4章 2. 化学的環境要因 生物的環境要因					環境要因(化学・生物)について理解する。					
18	第4章 3. 環境問題					環境問題(公害・地球規模)について理解する。					
19	第5章 産業保健 (第4章 小テスト)					産業保健について理解する。					
20	第6章 精神保健 精神疾患					精神保健について理解する。					
21	第6章 精神保健 精神障害者に対する医療・保護					精神障害者に対する医療・保護を理解する。					
22	第7章 母子保健 (第6章・7章 小テスト)					母子保健について理解する。					
23	確認テスト					前半部の確認テスト					
24	第8章 学校保健					学校保健について理解する。					
25	第9章 成人・高齢者保健(第8章・小テスト)					生活習慣病について理解する。					
26	第9章 高齢者の保健福祉対策					高齢者の保健福祉対策について理解する。					
27	第12章 疫学 (第9章 小テスト)					疫学について理解する。					
28	第13章 保健統計					保健統計指標について理解する。					
29	第13章 保健統計 (第12章・13章 小テスト)					保健統計指標について理解する。					
30	期末テスト 解答・解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。筆記試験は小テスト 4×10=40点・確認テスト30×2=60点・期末テスト50×2=100点の200点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。☒						毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。章ごとの復習はもちろんだが、時事問題にも注視すること(ニュース、ネットニュース、新聞など)					

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
医療概論									
〔授業の学習内容と心構え〕 医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、医療従事者としての責任や医療倫理感を持った教員が、西洋、中国、日本の医学のはじまりから現代医学に至るまでを講義する。医療人としてどう現場に立つかを考えながら受講して欲しい。									
〔到達目標〕 どのようにして人類は体や病と向き合ってきたのかを理解し、医療人として患者さんにどう対応していくかを具体的に持つことが出来るようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 医療概論（医歯薬出版）					〔準備学習・時間外学習〕 医学史ではカタカナ・漢字での人物名が多く出るので復習をすること。後半の医療制度や倫理は自分の考えなども踏まえて覚えていくようにしましょう。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション、医学史（西洋/古代・中世・ルネサンス）				西洋医学の始まりや流れを学び理解する。				
2	医学史（西洋/ルネサンス以降）				西洋の医学を学び理解する。				
3	医学史（中国①）				中国の医学の始まりや流れを学び理解する。				
4	医学史（中国②）				中国の医学を学び理解する。				
5	医学史（日本/古代～中世）				日本の医学の始まりや流れを理解する。				
6	1回目の確認テスト				確認テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
7	医学史（日本/中世～現代）				日本の医学の学びを理解する。				
8	現代医学について				現代の医学について学び理解することができる。				
9	現代医学について②				現代の医学について学び理解することができる。				
10	2回目のテスト				確認テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
11	現代医療の課題①				現代医療の課題を明確にし、課題に対しての自分の意見や考えが持てるようになる。				
12	現代医療の課題②				現代医療の課題を明確にし、課題に対しての自分の意見や考えが持てるようになる。				
13	現代の医療制度①				日本の医療制度を学び理解する。				
14	医療従事者の倫理①				医療従事者とは何かを理解し、医療従事者としてあるべき姿を理解し理解度を高める。				
15	確認テスト				確認テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。筆記試験は3回の確認テストの合計100点で評価する。（1回目、2回目は各25点満点、3回目は50点満点）評価は学則規定に準ずる。☒					〔特記事項〕				

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科		学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		経絡経穴概論Ⅰ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕											
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な経絡経穴の授業を行う。人体における経穴の位置や考え方を学び施術に活用できるよう積極的に受講してほしい。解剖学的知識や東洋医学的用語など新しい分野なので反復暗唱して授業に臨んでほしい。											
〔到達目標〕											
各経絡に対し経穴名を順番に取穴できる。 経絡経穴の特性を理解し説明できる。 解剖学的用語・東洋医学的用語を使い取穴方法を示すことができる。											
〔使用教材、参考文献等〕 新版 経絡経穴概論（医道の日本社）						〔準備学習・時間外学習〕					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	経絡・経穴の基礎 経絡・経穴の誕生～経絡の概要、要穴					正経十二経、奇経八脈について理解できる。					
2	経絡・経穴の基礎 経穴の取り方に必要な用語、骨度法、同身寸法					経穴の取穴に必要な寸度の決定方法や用語を理解する。					
3	経脈・経穴：手の太陰肺経①					手の太陰肺経の流注について理解する。 経穴名を順番に書くことができる。					
4	経脈・経穴：手の太陰肺経② 手の陽明大腸経①					経穴の取穴場所を理解できる。手の陽明大腸経の流注と経穴名の順番を理解し書くことができる。					
5	経脈・経穴：手の陽明大腸経②					手の陽明大腸経の経穴の取穴場所を理解できる。					
6	経脈・経穴：足の陽明胃経①					足の陽明大腸経の流注について理解する。 経穴名を順番に書くことができる。					
7	経脈・経穴：足の陽明胃経②					経穴の取穴場所を理解できる。					
8	確認テスト 前半の復習					各経脈の流注と経穴名・取穴場所を理解できる。					
9	確認テストの解答解説、 国家試験問題の紹介と経穴の覚え方アドバイス					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める					
10	経脈・経穴：足の陽明胃経③					経穴の取穴場所を理解できる。					
11	経脈・経穴：足太陰脾経①					足太陰脾経の流注について理解する。 経穴名を順番に書くことができる。					
12	経脈・経穴：足太陰脾経②					経穴の取穴場所を理解できる。					
13	経脈・経穴：手少陰心経					手少陰心経の流注について理解する。 経穴名を順番に書くことができる。経穴の取穴場所					
14	肺経・大腸経・胃経・脾経・心経の取穴確認実技					人体上の取穴場所を理解し、実践することができる。					
15	期末テスト 前期全体の復習					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
①1～15回授業：小テスト合計15点＋第1回テスト25点＋第2回テスト60点＝100点とし、その二つの50点満点／②16～30回授業：小テスト合計15点＋第1回テスト25点＋第2回テスト60点＝100点とし、その二つの50点満点／①50点満点＋②50点満点＝100点満点で年間成績評価☑											

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

<b>学科・コース</b> 鍼灸師科	<b>学年</b>	1	<b>開講区分</b>	通年	<b>担当教員</b>		
<b>授業科目名</b>					笠井 友和		
経絡経穴概論Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 (2)	授業回数 30
〔授業の学習内容と心構え〕							
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な経絡経穴の授業を行う。人体における経穴の位置や考え方を学び施術に活用できるよう積極的に受講してほしい。解剖学的知識や東洋医学的用語など新しい分野なので反復暗唱して授業に臨んでほしい。							
〔到達目標〕							
各経絡に対し経穴名を順番に取穴できる。 経絡経穴の特性を理解し説明できる。 解剖学的用語・東洋医学的用語を使い取穴方法を示すことができる。							
〔使用教材、参考文献等〕 新版 経絡経穴概論（医道の日本社）				〔準備学習・時間外学習〕			
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)			
16	前期期末試験解答解説、難経六十九難について			難経六十九難を使った経穴の選別方法を学び、理解できる。			
17	経脈・経穴：督脈			督脈の流注と経穴名、取穴方法を学び理解できる。			
18	経脈・経穴：手太陽小腸経①			手太陽小腸経の流注と経穴名を理解できる。			
19	経脈・経穴：手太陽小腸経②			手太陽小腸経の取穴法を理解できる。			
20	経脈・経穴：足太陽膀胱経①			足太陽膀胱経の流注と経穴名を理解できる。			
21	経脈・経穴：足太陽膀胱経②背部の横並び			足太陽膀胱経の経穴名と背部の取穴を理解できる。			
22	確認テスト 前半の復習			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。			
23	確認テスト返却 解答・解説 背部穴の問題演習			国家試験問題を解き経絡経穴概論の出題傾向を理解できる。			
24	経脈・経穴：足太陽膀胱経③			足太陽膀胱経の取穴を理解できる。			
25	経脈・経穴：背部の奇穴 背部の実際 取穴実技			触診をしながら人体上に取穴することができる。奇穴の性質と取穴を理解できる。			
26	正経十二経流注循環 脾経・心経・小腸経・膀胱系 取穴確認実技			流注を理解することができる。各経絡の取穴を人体上にすることができる。			
27	経脈・経穴：足少陰腎経①			足少陰腎経の流注と経穴名を理解できる。			
28	経脈・経穴：足少陰腎経②			足少陰腎経の取穴を理解できる。			
29	経脈・経穴：任脈			任脈の流注、経穴名、取穴法を理解できる。			
30	期末テスト 復習			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。			
〔評価について〕				〔特記事項〕			
① 1～15回授業：小テスト合計15点＋第1回テスト25点＋第2回テスト60点＝100点とし、その二つの50点満点／② 16～30回授業：小テスト合計15点＋第1回テスト25点＋第2回テスト60点＝100点とし、その二つの50点満点／①50点満点＋②50点満点＝100点満点で年間成績評価☑							

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科		学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		東洋医学概論Ⅰ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	90(3)	授業回数	45
〔授業の学習内容と心構え〕											
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や人体・病の捉え方を基本から習得できる授業を行う。初めて聞く東洋医学用語が多いため、意味などを覚えながら復習を欠かさずに受講すること。											
〔到達目標〕											
鍼灸の基本となる東洋医学の知識を習得する。また、東洋医学的な人体の考え方、病の捉え方を習得し、実技の授業に結びつけることが出来るようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
新板 東洋医学概論（医道の日本）											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
31	第2章 生理と病理 脾系統①					脾とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する					
32	第2章 生理と病理 脾系統②					脾とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する					
33	第2章 生理と病理 脾系統③					脾とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する					
34	第2章 生理と病理 肺系統①					肺とは何か。肺の生理作用や病とその病態について理解する					
35	第2章 生理と病理 肺系統②					肺とは何か。肺の生理作用や病とその病態について理解する					
36	第2章 生理と病理 肺系統③					肺とは何か。肺の生理作用や病とその病態について理解する					
37	第2章 生理と病理 腎系統①					腎とは何か。腎の生理作用や病とその病態について理解する					
38	中間テスト（第5回）					効果測定を行い理解を深める					
39	第2章 生理と病理 腎系統②					腎とは何か。腎の生理作用や病とその病態について理解する					
40	第2章 生理と病理 腎系統③					腎とは何か。腎の生理作用や病とその病態について理解する					
41	第2章 生理と病理 経絡					経絡の概念と構造について理解度を確認し各経絡に出現する病の違いを理解することができる					
42	蔵象まとめ・経絡病証まとめ					蔵象学説・経絡病証を振り返り病証分類について見直し試験に向けて理解を深める					
43	第2章 生理と病理 伝変と波及					蔵象学説を振り返り病証分類について見直し試験に向けて理解を深める					
44	期末試験（第6回）					効果測定を行い理解を深める					
45	解説・五臓の相互関係					1年を通しての内容を振り返り習得できていないところを把握し理解度を深める					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。試験は通年で6回実施、合計300点で評価する。前期（中間・期末試験50点+小テスト10点）、中期（中間・期末試験90点+小テスト10点）、後期（中間・期末試験120点+小テスト20点）評価は学則規定に準ずる。☑						毎授業において説明された重要事項については下線を引いたり、メモをとったりすること。またそれらの内容の復習を徹底すること。東洋医学の用語や漢字は、次回授業までに覚えてくること。☑					

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科		学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		東洋医学概論Ⅰ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	90(3)	授業回数	45
〔授業の学習内容と心構え〕											
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や人体・病の捉え方を基本から習得できる授業を行う。初めて聞く東洋医学用語が多いため、意味などを覚えながら復習を欠かさずに受講すること。											
〔到達目標〕											
鍼灸の基本となる東洋医学の知識を習得する。また、東洋医学的な人体の考え方、病の捉え方を習得し、実技の授業に結びつけることが出来るようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
新板 東洋医学概論（医道の日本）											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
31	第2章 生理と病理 脾系統①					脾とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する					
32	第2章 生理と病理 脾系統②					脾とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する					
33	第2章 生理と病理 脾系統③					脾とは何か。脾の生理作用や病とその病態について理解する					
34	第2章 生理と病理 肺系統①					肺とは何か。肺の生理作用や病とその病態について理解する					
35	第2章 生理と病理 肺系統②					肺とは何か。肺の生理作用や病とその病態について理解する					
36	第2章 生理と病理 肺系統③					肺とは何か。肺の生理作用や病とその病態について理解する					
37	第2章 生理と病理 腎系統①					腎とは何か。腎の生理作用や病とその病態について理解する					
38	中間テスト（第5回）					効果測定を行い理解を深める					
39	第2章 生理と病理 腎系統②					腎とは何か。腎の生理作用や病とその病態について理解する					
40	第2章 生理と病理 腎系統③					腎とは何か。腎の生理作用や病とその病態について理解する					
41	第2章 生理と病理 経絡					経絡の概念と構造について理解度を確認し各経絡に出現する病の違いを理解することができる					
42	蔵象まとめ・経絡病証まとめ					蔵象学説・経絡病証を振り返り病証分類について見直し試験に向けて理解を深める					
43	第2章 生理と病理 伝変と波及					蔵象学説を振り返り病証分類について見直し試験に向けて理解を深める					
44	期末試験（第6回）					効果測定を行い理解を深める					
45	解説・五臓の相互関係					1年を通しての内容を振り返り習得できていないところを把握し理解度を深める					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。試験は通年で6回実施、合計300点で評価する。前期（中間・期末試験50点+小テスト10点）、中期（中間・期末試験90点+小テスト10点）、後期（中間・期末試験120点+小テスト20点）評価は学則規定に準ずる。☑						毎授業において説明された重要事項については下線を引いたり、メモをとったりすること。またそれらの内容の復習を徹底すること。東洋医学の用語や漢字は、次回授業までに覚えてくること。☑					

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科	学年 1	開講区分 通年	担当教員 藤原 真由美		
授業科目名 東洋医学概論Ⅰ	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 90(3)	授業回数 45	
〔授業の学習内容と心構え〕 医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や人体・病の捉え方を基本から習得できる授業を行う。初めて聞く東洋医学用語が多いため、意味などを覚えながら復習を欠かさずに受講すること。					
〔到達目標〕 鍼灸の基本となる東洋医学の知識を習得する。また、東洋医学的な人体の考え方、病の捉え方を習得し、実技の授業に結びつけることが出来るようになる。					
〔使用教材、参考文献等〕 新板 東洋医学概論（医道の日本）			〔準備学習・時間外学習〕		
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)		
16	第5章 弁証論治（八綱弁証） 第2章 生理と病理 病因病機（外感病因）①		人体に影響を及ぼす外部からの原因と病態のメカニズムについて理解ができる。		
17	第2章 生理と病理 病因病機（外感病因）②		人体に影響を及ぼす外部からの原因と病態のメカニズムについて理解できる		
18	第2章 生理と病理 病因病機（内傷病因とその他の病）		人体内部から病を発症する原因と病態のメカニズムについて理解できる		
19	第2章 生理と病理 病因病機（内傷病因とその他の病）		人体内部から病を発症する原因と病態のメカニズムについて理解できる		
20	第2章 生理と病理 蔵象学説①		五臓六腑とは何か概念と役割について理解できる		
21	第2章 生理と病理 蔵象学説②		五臓六腑とは何か概念と役割について理解できる		
22	中間テスト（第3回）		効果測定を行い理解度を深める		
23	第2章 生理と病理 肝系統①		肝とは何か生理作用や病とその病態について理解できる		
24	第2章 生理と病理 肝系統②		肝とは何か生理作用や病とその病態について理解できる		
25	第2章 生理と病理 肝系統③		肝とは何か生理作用や病とその病態について理解できる		
26	第2章 生理と病理 心系統①		心とは何か生理作用や病とその病態について理解できる		
27	第2章 生理と病理 心系統②		心とは何か生理作用や病とその病態について理解できる		
28	第2章 生理と病理 心系統③		心とは何か生理作用や病とその病態について理解できる		
29	これまでの復習・問題演習		問題演習を通じて理解不足の部分を各自把握し知識の習得を行う		
30	期末テスト（第4回）		効果測定を行い理解度を深める		
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。試験は通年で6回実施、合計300点で評価する。前期（中間・期末試験50点+小テスト10点）、中期（中間・期末試験90点+小テスト10点）、後期（中間・期末試験120点+小テスト20点）評価は学則規定に準ずる。☑			〔特記事項〕 毎授業において説明された重要事項については下線を引いたり、メモをとったりすること。またそれらの内容の復習を徹底すること。東洋医学の用語や漢字は、次回授業までに覚えてくること。☑		

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕									
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸の歴史をはじめ、基礎となる用具の種類・使用方法・消毒法などを習得する授業を行う。 臨床で使用する道具の名称や使用方法を実際に見たり触ったりして覚えるよう努めてほしい。									
〔到達目標〕									
鍼灸臨床現場で用いる器具、術式、リスクへの対処の基礎知識を身につけ、それらを将来、臨床の場で発展・探求できるようにする。☑									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
はりきゅう理論（医道の日本）☑					教科書を良く読むこと。はり・きゅうの道具にふれる。☑				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようにすること)					
1	オリエンテーション・第1章 概論 第2章 鍼の基礎知識			この科目に関する勉強方法を理解し、実技授業（鍼灸臨床現場）で使用する道具の名称を覚える。					
2	第2章 鍼の基礎知識			鍼の長さ・太さの名称、鍼尖の形状・鍼の材質の特徴を理解する。古代九鍼について。					
3	第3章 刺鍼の方式と術式 テスト			小 刺鍼の方式・術式を理解する。					
4	第5章 灸の基礎知識 第6章 灸術の種類 小テスト			灸の基礎知識、灸施術で使用する灸術について理解する。					
5	第1回～第4回の確認テスト 第4章 特殊鍼法			確認テストで第1回～第4回までの習熟度を確認する。特殊な施術道具や方法を理解する。					
6	第1回～第4回の確認テスト返却・解説 第4章 特殊鍼法			特殊な施術道具や方法を理解する。					
7	第3章 刺鍼の方式と術式			17手技の方法を理解する。					
8	第1回～第7回復習 小テスト			第1回～第7回復習。					
9	第7章 リスク管理			鍼灸施術におけるリスク管理を理解する。鍼灸施術の禁忌を理解する。					
10	第7章 リスク管理 小テスト			鍼灸施術における感染症対策を学ぶ。					
11	第7章 リスク管理 小テスト			鍼灸施術において考慮すべきリスクや副作用、それらが起きた場合の処置を理解する。					
12	第7章 リスク管理 小テスト			灸施術において考慮すべきリスクや副作用、それらが起きた場合の処置を理解する。					
13	総復習 小テスト			今までの授業の総復習					
14	期末テスト			今までの授業の知識の習熟度を確認する。					
15	期末テストの返却・解説			試験に対する勉強量や方法が適正であったか自己評価を行い、振り返りを行う。					
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(75点)と期末テスト(90点)行う。小テスト(35点)はFormsで行う。					プリント（データ）資料を配布し授業を行う。小テストを行うので復習をしっかりするように。☑				

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース <b>鍼灸師科</b>	学年 <b>1</b>	開講区分 <b>通年</b>	担当教員 鈴木 勇氣 / 森 大輔
授業科目名  <div style="text-align: center;">触擦解剖学</div>	必修・選択 <b>必修</b>	授業形態 <b>講義</b>	時間数(単位) <b>30(1)</b> / 授業回数 <b>15</b>
〔授業の学習内容と心構え〕 医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。触診とは自分の手の感覚で、人体構造の位置を特定すること、そして目的部位の評価をすることである。体表から触れることで構造の特徴を理解し、対人施術に応用できることを目指す。			
〔到達目標〕 解剖学の復習と、体表触診をすることで人体構造の位置を把握することができる。 性別、年齢などの個体差を感じ取ることができる。			
〔使用教材、参考文献等〕		〔準備学習・時間外学習〕	
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)	
1	足関節・足部の触擦	足関節・足部の機能解剖を理解し、骨、靭帯、軟部組織、筋などを触察することができる。	
2	膝関節の触擦	膝関節の機能解剖を理解し、骨、靭帯、軟部組織、筋などを触察することができる。	
3	足関節・足部・膝関節の触擦復習	足関節・足部・膝関節の骨をマーカーペンで触察することができる。	
4	確認試験①	筆記試験にて足関節・足部・膝関節の骨ランドマーク、靭帯、軟部組織、筋などの理解力を確認する。	
5	手のつくりかた	身体に触れる際の手の当て方が理解できる。	
6	触診の基礎、棘突起の触察	触診の基礎を理解する。第7頸椎棘突起～第5腰椎棘突起までの触診ができる。	
7	触診の基礎、棘突起の触察	触診の基礎を理解する。第7頸椎棘突起～第5腰椎棘突起までの触診ができる。	
8	棘突起の触察・腰部の骨触察	第7頸椎棘突起～第5腰椎棘突起までの触診ができる。12肋骨・腸骨稜が確認できる。	
9	上肢帯・上肢の骨触察	肩甲骨・上腕骨のランドマークが確認できる。	
10	骨触察の復習	背部の骨触診を実施できる。	
11	確認試験②	筆記試験にて棘突起・肩甲骨・腸骨稜・12肋骨・上腕骨のランドマークの理解力を確認する。	
12	上肢帯・上肢の骨触察	肩甲骨・上腕骨のランドマークが確認できる。	
13	上肢帯の筋触察	表層の筋を確認できる。	
14	上肢帯の筋触察	表層の筋を確認できる。	
15	期末試験	実技試験	
〔評価について〕 評価は、筆記試験・実技試験で行う。試験は確認テスト①（100点）確認テスト②（40点）と期末テスト（60点）の合計200点で評価する。確認テスト①・②と期末テストの合計点が120点未満の者は再試験を実施する。評価は学則規定に準ずる。☑		〔特記事項〕 必要に応じてプリントを配布（データ）する。☑	

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科 授業科目名 社会あはき学Ⅰ	学年 1	開講 区分 通年	担当教員 柏崎 雅大	時間数 (単位) 15 (1)	授業 回数 8
〔授業の学習内容と心構え〕 医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、現代社会における問題とそれに対するあはき師の役割を講義形式で行う。さらにワーク形式で各々の意見を出し、具体的な問題点の抽出や解決策などを考える。					
〔到達目標〕 我が国における問題点とあはき師の役割を理解できる。 将来の鍼灸師像を明確に出来る。					
〔使用教材、参考文献等〕 社会あはき学			〔準備学習・時間外学習〕 講義で行った内容を復習し、自分自身の考えを振り返る。		
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)		
1	総論：日本のあはき師の推移と世界のあはき師の実際、日本の医療の現状、ワーク（グループワークの進め方について）		日本と世界の資格要件の違いと日本が抱える問題点を理解できる。本科目におけるワークの方法・基本的ルールを理解できる。		
2	産業領域、ストレス社会とあはき師 ワーク（健康経営、就労者支援について）		就労者における問題、メンタルヘルスの問題とあはき師の役割について理解できる。		
3	高齢社会とあはき師 ワーク（高齢社会の問題抽出について）		高齢社会における問題点とあはき師の役割について理解できる。		
4	病院内で活動するあはき師		病院内で活動するための問題点や意義について理解できる。		
5	緩和ケアとあはき師 ワーク（在宅医療やターミナルケアの意義について）		在宅治療やターミナルケアの意義や注意点・問題点について理解できる。		
6	トレーナーとして活動するあはき師 海外で活動するあはき師		スポーツ分野や海外で活動するあはき師の仕事や役割を理解できる。		
7	女性の問題、不妊症とあはき師		女性が抱える特有の問題、不妊に伴う問題とあはき師の役割について理解できる。		
8	総括レポート課題、他者の課題解決を促すワーク（期末評価）		全8回の講義内容からあはき師に関わる社会問題、自身の目指す鍼灸師像を振り返り、あはき師に関わる課題解決の視野を獲得できる。		
〔評価について〕 評価は、授業内ワークでの成果物と記述形式の期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。☑			〔特記事項〕 必要に応じ配布資料による授業を行なう。クラウドサービスを利用したワークを行なうため、必要なアカウントを取得する。		

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

<b>学科・コース</b> 鍼灸師科	<b>学年</b>	1	<b>開講区分</b>	通年	<b>担当教員</b>		
<b>授業科目名</b>					高濱 晴美/森 大輔/岩井 李恩		
基礎はり実技	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 (2)	授業回数 30
〔授業の学習内容と心構え〕							
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。取穴の基本となる体表解剖の確認しながら手足腰部の経穴刺鍼を安全に行える練習を徹底して行う。反復練習を行うことにより基本動作・安全動作を身に付けさせる。おもてなしのこころを授業の中で取り入れ、患者対応の仕方や声かけなども実践する。							
〔到達目標〕							
正しい手洗い・消毒方法を身に付け感染予防の重要性を知ることができる。片手挿管が素早くできるようになり、刺鍼における手の動かし方を身に付ける。正しい刺鍼操作を身につけ、正しい動作で鍼を枕に刺鍼できるようになる。							
〔使用教材、参考文献等〕 はりきゅう実技〈基礎編〉(医道の日本社)				〔準備学習・時間外学習〕 初めて行なう技術であるため、授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。			
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)			
1	・オリエンテーション ・道具の確認作業と実際に手にしてみよう。			実技室の使用方法や実技で使用する道具の名称や扱い方について理解する。			
2	ワゴン消毒、手指消毒の確認と片手挿管法の練習			消毒は完璧に、片手挿管法をスムーズに出来るよう練習する。			
3	片手挿管法と刺鍼動作について			刺鍼動作を理解し、片手挿管からの流れで刺鍼イメージをもつ。			
4	片手挿管法をチェックする			小テストとして片手挿管法をチェックし、自分の課題を理解する。			
5	刺鍼動作について			刺鍼動作を流れて実践できるようになる。			
6	自分に刺鍼してみよう			消毒から刺鍼、後消毒までの流れを理解し、刺鍼できる。			
7	片手挿管法・刺鍼動作の再確認			夏休み明けだが、スムーズに刺鍼できる。			
8	取穴も含めて刺鍼する			取穴も実際に動作の中で出来るようになる。			
9	ここまでの確認テスト			消毒法も含めて自分に刺鍼できる。			
10	テストの振り返りと改善点について			振り返りを受けて、改善点を理解し修正をしていく。			
11	ペア刺鍼について（タオルワークや患部の出し方なども含めて）			ベッドの患者さんを案内したり、刺鍼準備が出来るようになる。			
12	ペア刺鍼①			ペアを組んで刺鍼をすることが出来る。			
13	ペア刺鍼②			ペアを組んで刺鍼をすることが出来る。			
14	確認テスト			ペアに刺鍼をすることが出来る。			
15	テストのフィードバックと刺鍼練習			振り返りをして次につなげよう。			
〔評価について〕				〔特記事項〕			
9回目、14回目の確認テスト（各45点）と4回目に10点分のテストを実施。合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。☒				はり実技の時間以外にも、実技室開放などを利用して自ら練習をする習慣をつけていきましょう。鍼を刺す練習をするときは、必ず鍼灸師科の先生と一緒に練習をすること。これは約束なので、守ってください！難しい手の動きがあれば授業内に担当教員のアドバイスを受けましょう。			

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年 1	開講区分 通年	担当教員 高濱 晴美/森 大輔/岩井 李恩		
授業科目名 基礎はり実技		必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 60(2)	授業回数 30	
〔授業の学習内容と心構え〕 医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。取穴の基本となる体表解剖の確認しながら手足腰部の経穴刺鍼を安全に行える練習を徹底して行う。反復練習を行うことにより基本動作・安全動作を身に付けさせる。おもてなしのこころを授業の中で取り入れ、患者対応の仕方や声がけなども実践する。						
〔到達目標〕 正しい手洗い・消毒方法を身に付け感染予防の重要性を知ることができる。片手挿管が素早くできるようになり、刺鍼における手の動かし方を身に付ける。正しい刺鍼操作を身につけ、正しい動作で鍼を枕に刺鍼できるようになる。						
〔使用教材、参考文献等〕 はりきゅう実技〈基礎編〉(医道の日本社)				〔準備学習・時間外学習〕 初めて行なう技術であるため、授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。		
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)			
16	ペアを組んで上肢への取穴・刺鍼練習 手太陰肺経・手陽明大腸経		上肢の体表解剖を理解しランドマークを見つけることができる。手の太陰肺経・手の陽明大腸経の取穴			
17	ペアを組んで上肢への取穴・刺鍼練習 手少陰心経・手太陽小腸経		手少陰心経・手太陽小腸経の取穴を行うことができる。前揉法、切皮方法の工夫で痛みを少なく刺鍼を			
18	ペアを組んで上肢への取穴・刺鍼練習 手厥陰心包経・手少陽三焦経		手厥陰心包経・手少陽三焦経の取穴を行うことができる。前揉法・切皮方法の工夫で無痛で刺鍼を行う			
19	ペアを組んで下肢（大腿含む）への取穴・刺鍼練習 足陽明胃経の経絡の流れとそれに関わる筋の確認		下肢の体表解剖を理解しランドマークを見つけることができる。胃経の取穴を行うことができる。			
20	ペアを組んで下肢（大腿含む）への取穴・刺鍼練習 足太陽膀胱経・足少陽胆経の経絡の流れ		足太陽膀胱経・足少陽胆経の経絡の流れを確認し取穴することができる。無痛で旋刺法で刺入するこ			
21	ペアを組んで下肢（大腿含む）への取穴・刺鍼練習 足厥陰肝経・足少陰腎経・足太陰脾経の経絡の流れ		足厥陰肝経・足少陰腎経・足太陰脾経の経絡の流れを確認し指定された経穴を取穴することができる。			
22	まとめ		上腕・下腿にある経穴を取穴することができる。刺入方法で無痛で刺入することができる。指定された			
23	確認テスト		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。			
24	ペアを組んで体幹（腰部）の取穴 （ヤコビー線、肩甲骨下角、上角・棘突起、C7の確		腰部の体表解剖を理解しランドマークを見つけることができる。			
25	ペアを組んで体幹（腰部）の取穴 横並びの確認と直刺 （ヤコビー線、肩甲骨下角、上		腰部にある経穴を確認し指定された経穴を取穴することができる。できるだけ無痛で直刺をすることが			
26	ペアを組んで体幹（腰部）の取穴と刺鍼 直刺 腰背部の筋の走行を確認する。		体幹背部にある筋の走行を理解することができる。皮膚表面に対して直刺することができる。			
27	ペアを組んで体幹（腰部）の取穴と刺鍼 直刺 腰背部の筋の走行を確認する。		直刺で指定された刺入深度で刺入することができる。複数の鍼の刺鍼動作を安全に行うことが			
28	ペアを組んで体幹（腰部）の取穴と刺鍼 斜刺 腰背部の筋の走行を確認する。		斜刺で指定された刺入深度で刺入することができる。複数の鍼の刺鍼動作を安全に行うことが			
29	ペアを組んで体幹（腰部）の取穴と刺鍼 斜刺 腰背部の総復習		時間制限のあるなかで指定された経穴の取穴を行うことができる。安全な刺鍼動作をスムーズに行うこ			
30	期末テスト		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。			
〔評価について〕 9回目、14回目の確認テスト（各45点）と4回目に10点分のテストを実施。合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。☑			〔特記事項〕 はり実技の時間以外にも、実技室開放などを利用して自ら練習をする習慣をつけていきましょう。鍼を刺す練習をするときは、必ず鍼灸師科の先生と一緒に練習をすること。これは約束なので、守ってください！難しい手の動きがあれば授業内に担当教員のアドバイスを受けましょう。			

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科		学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
基礎きゅう実技										
〔授業の学習内容と心構え〕										
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸師としての患者様の対応や透熱灸の人体施術（艾への点火・姿勢・消毒など）を理解・実践できるよう繰り返し教授し身に付けさせる。一つ一つの授業が重要な構成になっているので集中して望んでほしい。										
〔到達目標〕										
散艾を米粒大、半米粒大に作成し、安全に考慮した点火動作をスムーズに行うことができる。 竹の曲面・紙上施灸の訓練を経て、人体各部にも正確に目標点を捉え、施灸ができる。 艾炷の作成（大きさ形柔かさなど）に必要な基本動作を身につけ、部位に応じた調整を行うことができる。 半米粒大での透熱灸、米粒大での知熱灸（八分灸）を体表面で実施できる。 人体施灸において安全に施灸動作を行うことができる。										
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕				
はりきゅう実技(医道の日本社)						シラバスを確認し、重要項目を事前に学習しておく。☑				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 手の訓練☑				実技室の使用方法を理解できる。灸術について理解し艾の扱いかたを理解できる。					
2	こよりと艾炷の作り方を理解し、ベッドの上に米粒大の艾炷を据える				艾炷を米粒大に作るができる。					
3	ベッドの上に米粒大・半米粒大の艾炷を据える				艾炷を米粒大と半米粒大に作るができる。					
4	線香を持って竹上に据える 米粒大・半米粒大(大きさ+形重視)				艾炷を米粒大と半米粒大に作り大きさを整えることができる。					
5	線香の扱い(伴う準備、徐灰、点火動作、後処理)の習得、竹上の点火訓練				線香を安全に扱いながら艾炷を作成し、竹の目標点に点火することができる。					
6	ベッドの上に米粒大・半米粒大の艾炷を据える動作訓練(形、大きさ、速さを意識)				艾炷を制限時間を意識しながら均等に作成することができる。					
7	確認テスト(米粒大と半米粒大の艾炷の作り分け)				テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。					
8	紙上の施灸訓練の手引き				紙上に施灸する際の注意点を理解できる。					
9	人体施灸のリスク管理と灸熱緩和法の習得 自己施灸訓練(足底部への施灸)				人体施灸のリスクを理解、灸熱緩和法と吊り上げた際の対処法を習得し、自身に施灸することができる。					
10	施灸による治療の観察と実践				有資格者の灸術を観察し、施灸のプロセスにおける身につけるべき留意点を理解できる。					
11	インフォームドコンセントと対人施灸の実践				対人施灸のリスクを考慮して、ペアに安全な施灸動作を実施できる。					
12	灸墨を利用した人体施灸				灸点を意識して安全な人体施灸ができる。					
13	皮膚反応点の観察と人体施灸(前腕部)				皮膚を摘んだ際の反応を感じ取り、施灸による変化を体感できる。					
14	皮膚反応点の観察と人体施灸(督脈上)☑				皮膚を摘んだ際の反応を感じ取り、施灸による変化を体感できる。					
15	人体施灸(腱鞘炎治療の試行)				腱鞘炎治療を想定した灸術を修得できる。					
〔評価について〕						〔特記事項〕				
評価は実技試験で行う。 実技試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。						授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。				

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科		学年	1	開講区分	通年	担当教員			柏崎 雅大 / 森 大輔		
授業科目名		基礎きゅう実技		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30		
〔授業の学習内容と心構え〕													
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸師としての患者様の対応や透熱灸の人体施術（艾への点火・姿勢・消毒など）を理解・実践できるよう繰り返し教授し身に付けさせる。一つ一つの授業が重要な構成になっているので集中して望んでほしい。													
〔到達目標〕													
散艾を米粒大、半米粒大に作成し、安全に考慮した点火動作をスムーズに行うことができる。 竹の曲面・紙上施灸の訓練を経て、人体各部にも正確に目標点を捉え、施灸ができる。 艾炷の作成（大きき形柔かさなど）に必要な基本動作を身につけ、部位に応じた調整を行うことができる。 半米粒大での透熱灸、米粒大での知熱灸（八分灸）を体表面で実施できる。 人体施灸において安全に施灸動作を行うことができる。													
〔使用教材、参考文献等〕							〔準備学習・時間外学習〕						
はりきゅう実技(医道の日本社)							シラバスを確認し、重要項目を事前に学習しておく。☑						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)							
16	人体施灸（井穴反応点）					足趾（井穴）に対し、正確に施灸動作を行える。							
17	二点交互灸（失眠穴）の訓練					足底部の二点交互灸の要領を理解し、実施できる。							
18	人体施灸（腰部：急性腰痛の治療の試行）					腰部への施灸を安全に行える。							
19	人体施灸（仙骨部）					施術野確保の際の配慮とタオルワークを行い、仙骨部への施灸を安全に行える。							
20	知熱灸の基礎（米粒大の八分灸）					自身・対人にてタイミングよく消火ができる。人体に伝わる熱感を体験し、適切なタイミングを判断でき							
21	知熱灸の実践（腰部の施灸）					適切な安全管理のもと、腰部に知熱灸を施すことができる。							
22	知熱灸の実践（肩背部の施灸）					適切な安全管理のもと、肩背部に知熱灸を施すことができる。							
23	知熱灸の実践（肩部・肩上部の施灸）					適切な安全管理のもと、肩部・肩上部に知熱灸を施すことができる。							
24	知熱灸の実践（足関節部の施灸）					足関節の動きを評価して適切な安全管理のもと、足関節部に知熱灸を施し、施灸後の変化をみることができ							
25	確認テスト（紙上施灸による施灸速度の評価） 糸状灸の基礎（至陰穴の施灸）					テストにより効果測定を行い、施灸速度の技術確認ができる。							
26	糸状灸の実践（足趾部の施灸）					糸状灸の応用的技術習得を目指し、指部に安全に施灸ができる。							
27	糸状灸の実践（膝関節部の施灸）					糸状灸の艾炷形成を習得し、膝部に安全に施灸ができる。							
28	期末テスト（失眠穴：二点交互灸） 糸状灸の実践（至陰穴の施灸）					テストにより効果測定を行い、人体における施灸速度の技術確認ができる。							
29	特別授業 セイリン社セラミック温灸器講座					きゅうの施術機器に触れ、もぐさ以外の温熱刺激について理解を深められる。							
30	灸術・鍼術の実践（頸肩部の施術）					適切な安全管理のもと、はりきゅう複合の施術を経験し一般臨床の理解を深める							
〔評価について〕							〔特記事項〕						
評価は実技試験で行う。 実技試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。							授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい手の動きがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。						

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科		学年	1	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
認定実技 (OSCE I)										
〔授業の学習内容と心構え〕 医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、実習施設を活用して関係法規で定められる施設要件や広告制限などを理解するための実践的な授業を行う。										
〔到達目標〕 あん摩マッサージ指圧師はり師きゆう師に関する法律の施設要件や衛生設備、広告制限の部分を理解する。										
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕					
ずっと使える！鍼灸臨床BOOK										
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1	手の感覚を育てる				互いの皮膚や筋肉の質の違いを手技を通して感じる。					
2	手指の消毒と手洗いについて				施術所における衛生面について理解し実践できる。					
3	業界理解				鍼灸・柔道整復などセラピスト業界における知識を養う。					
4	業界理解				鍼灸・柔道整復などセラピスト業界における知識を養う。					
5	業界理解				鍼灸・柔道整復などセラピスト業界における知識を養う。					
6	業界理解				鍼灸・柔道整復などセラピスト業界における知識を養う。					
7	業界理解				鍼灸・柔道整復などセラピスト業界における知識を養う。					
8	関係法規の理解と実践①				あはき法における施設要件を理解する。					
9	関係法規の理解と実践①				あはき法における施設要件を理解する。					
10	附属鍼灸院での業務				附属鍼灸院の施設要件や業務について理解する。					
11	附属鍼灸院での業務				附属鍼灸院の施設要件や業務について理解する。					
12	関係法規の理解と実践②				あはき法における施設要件を理解する。					
13	関係法規の理解と実践②				あはき法における施設要件を理解する。					
14	関係法規の理解と実践③				あはき法における施設要件を理解する。					
15	関係法規の理解と実践③				あはき法における施設要件を理解する。					
〔評価について〕					〔特記事項〕					
レポートにて評価を行う。										